



## 工場見学力 ショウワノート 高岡新工場 富山県高岡市

# 「ジャポニカ学習帳」はこうして作られていた！

工場見学といえば、かつては学校が行う社会科見学の要素が強かったが、近年は新たな観光コンテンツとして注目されている。「ジャポニカ学習帳」を製造するショウワノート株式会社でも、昨年からは工場見学をスタートさせた。こうした産業観光は、企業や製品の認知度アップだけでなく、地域活性化という点でも大きな可能性を秘めている。

日本人で「ジャポニカ学習帳」を知らない、という人はまずいないのではないだろうか。製造するのは、富山県高岡市に本社を置くショウワノート株式会社。その製造過程を見ることが出来る工場見学ツアーが、2018年（平成30）6月から始まり、人気となっている。この企画は、創業70周年を記念して昨年5月に新工場が完成したことがきっかけだが、狙いはそれだ

1 歴代の表紙がずらりと並ぶタイムトンネル。ショウワノートの製品は、すべてこの高岡工場で製造されている。  
2 花びらのように見える「ハナカマキリ」や世界で初めて撮影に成功したものとされた「テングアゲハ」など珍しいものもある。表紙写真は1978年の「世界特写シリーズ」以来、昆虫植物写真家の山口進氏がすべて撮影している。

けではない。「おかげさまでジャポニカ学習帳のブランド認知度は高いのですが、メーカーがショウワノートであり、富山県高岡市に本社があることは、実はあまり知られていません」と、語るのは同社の事業戦略室室長の橋邊吉成（はしへ・よしなり）さんだ。そこで、工場見学を機に企業認知を拡大し、さらに観光面でも富山県に貢献したいと考えた。現在は、県内の小中学生の遠足や社会科見学をはじめ、北陸地区の小中学生がいるファミリーやシニア層、帰省や旅行で来県する一般客など来訪者は幅広い。さらにショウワノートの顧客企業、行政や商工会議所からも視察に来る。その数は今年5月17日時点で3335人だが、さらに増加中だ。

工場見学の目玉でもあるジャポニカ学習帳の製造ラインでは、ノートの中身となる原紙の巻きグ

「タイムトンネル」と呼ばれるコーナーも見どころの一つ。壁や天井に、新旧合わせて611枚の学習帳の表紙が展示されており、「ローアングルから撮ると奥行き感のあるいい写真になります」と橋邊さん。インスタ映えるスポットとして大人気なのだとか。

限定商品などを扱うファクトリーショップも充実のラインアップだ。復刻版のジャポニカ学習帳、クリアファイル、ピンバ

取材協力・写真提供＝ショウワノート株式会社



3 ノートのもとになる「原紙」はロール紙と板紙の2種類がある。ロール紙は直径1m27cm、重さ700kgあり、これ一巻きでノート7,200冊ができる。製造時には1時間に1本が消費されるという。4 工場の隣にある「高岡おとぎの森公園」には、「ドラえもん」の作中に登場する空き地が再現され、アニメに出てくる登場人物の像が設置されている。

